

point

出願タイプは2種類から選べます

● 3教科型のみ

椋山の試験のみで合否判定が受けられます。

● 3教科型+共通テスト併用型

共通テスト併用型 (P.15) と併願すると、
1日の試験で2つの合否判定が受けられます！
(3日間受験で最大6つの合否判定)

point

3日間の試験日程から
最大3日間受験できます

1日につき1学科の受験が可能です。
子ども発達学科は、1日につき1専修の受験が可能です。

point

2月3日は学外試験場で
受験できます〈浜松・津・岐阜〉

募集人員・試験日・試験場

募集人数が多い椋山のメイン入試

学部	学科・専修	募集人員	出願期間	試験日時／試験場	合格発表日
生活科学部	●管理栄養学科	25	2024年 1月9日(火) ▼ 2024年 1月19日(金) 消印有効* ※持参の場合は、 入学センターの窓口で 締切日当日のみ 9時～17時まで受付可。	試験日 2024年 2月3日(土) 2月4日(日) 2月5日(月) 試験時間 国語 10:00～11:00 外国語(英語) 11:50～12:50 地理歴史、理科 14:00～15:00 数学 15:40～16:40 (受験教科は事前申請が必要です) 試験場 椋山女学園大学 星が丘キャンパス 2月3日は学外試験場 で受験が可能 浜松 津 岐阜	複数日 受験可能 2024年 2月13日(火)
	●生活環境デザイン学科	21			
外国語学部	●英語英米学科	21			
	●国際教養学科	16			
人間関係学部	●人間共生学科	15			
	●心理学科	22			
現代マネジメント学部	●現代マネジメント学科	28			
教育学部	●子ども発達学科 保育・初等教育専修	10			
	●子ども発達学科 初等中等教育専修	13			
看護学部	●看護学科	22			

成績上位者 10名以内に年額 60万円の給付

看護学部では、一般入試A募集人員40名のうち入学者の成績上位10名に給付型の奨学金制度を用意しています。
(2教科型2名、3教科型6名、共通テスト併用型2名)

- 対象：一般入試A(2教科型、3教科型、共通テスト併用型)の成績が優秀である者(10名以内)
 - 給付額：年額60万円(返済を要しません)
 - 期間：最長4年間継続(2年次以降は、前年度の学業成績が上位であることを条件とします)
- ※2～4年次には上記とは別に本学部内学業成績上位6名以内へ、年額36万円を給付する奨学金制度もあります。

出願資格

次のいずれかの条件に該当する女子に限ります。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者または2024年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者または2024年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者または2024年3月31日までにこれに該当する見込みの者

【注】下記に該当する方は、出願期間以前に入学センターにお問い合わせください。

- ・学校教育法施行規則第150条第6号または第7号の規定に基づいて出願しようとする者
- ・外国の学校等 ①外国において学校教育における12年の課程を修了(見込)した者 ②①に準ずるもので文部科学大臣の指定した者
- ・文部科学大臣の指定した者

入学検定料

1出願 30,000円

- ◎共通テスト併用型との併願や2教科型の出願を含む、2出願以降の入学検定料/併願するごとに+5,000円

試験科目・配点

全問マークシート方式

学力の3要素について
◎: 特に強く関連している
○: 強く関連している
△: 関連している

学力試験および出願書類によって選抜します。

受験教科は出願時に事前申請する必要があります。

教科科目間の問題難易度の差による有利不利をなくすため中央値補正法で得点調整をした後、合否判定します。(P.47 参照)



※外国語学部は追加の入学検定料不要で、英語英米学科と国際教養学科の2学科に出願できます。(P.47 参照)

出題範囲

教科	科目・出題範囲
国語	「国語総合・現代文B・古典B」(漢文の出題なし。現代文と古文は一部の問題で選択可能)
地理歴史	「世界史B」「日本史B」から1科目
数学	「数学I・数学A・数学II・数学B」(数学I・数学Aと数学II・数学Bはどちらか選択可能)【※1】
理科	「化学基礎」「生物基礎」から1科目
外国語(英語)	「コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II」(リスニングを課さない)

【※1】「数学」は一部の問題で「数学I・数学A(場合の数と確率・図形の性質)」と「数学II・数学B(数列・ベクトル)」のどちらかを選択し解答してください。
なお、「数学I」の範囲から数の理論に関連する出題の可能性がります。